

還暦を迎えた日本とジャマイカとの外交関係

川原 英一（※）

カリブ海に浮かぶ島国ジャマイカと日本との外交関係樹立から60周年を迎えたことを祝うレセプションが、2月8日午後、都内ホテルであり、家内と共に出席しました。

ジャマイカは、カリブ海に浮かぶ島嶼国で人口約300万人、面積は、ほぼ岐阜県（1万平方キロ超）と同じです。コーヒーとレゲエ音楽、そして陸上競技選手の世界的な活躍が日本でも知られています。



同レセプション会場には外務省賓客（ゲスト）として訪日されて、前日には上川大臣との二国間会談を終えられたジョンソン・スミス外務・貿易大臣（Hon. Johnson Smith, Minister of Foreign Affairs and Foreign Trade of Jamaica）もご出席されていました。

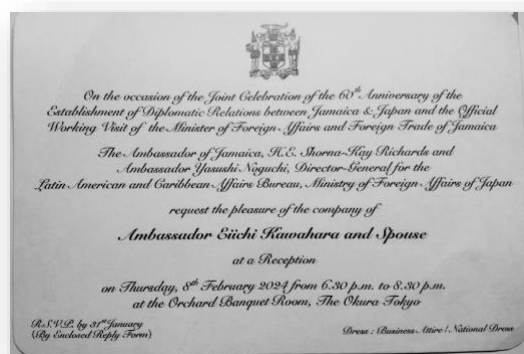
同外務・貿易大臣は、カリブ海に浮かぶ14の島嶼国などが加盟するカリブ外交・共同体（カリコム）の理事会議長として指導的立場にあります。

両国の外交関係がはじまった1964年は、東京オリンピック及び同パラリンピックが初めて同一都市で開催されています。この年には、東京・大阪間の新幹線や首都高速道路などが開通し、初のIMF世銀総会が日本で開催されるなど日本の経済復興・発展が大変に注目された時期に重なります。

ジャマイカに関連する過去の個人的体験としては、国連機関の会合に出席した際に、ジャマイカ代表が国連海洋法について知見の豊富な方で、とても素晴らしい発言をされて、印象に残ったことや、フロリダ州マイアミにいたり、大型クルーズ船で、コバルト・ブルーの美しいカリブ海に浮かぶ島を家族とともに訪問したことなどが記憶にあります。

60周年祝賀レセプションは、ジャマイカと日本の国歌演奏に続き、旧知のリチャーズ駐日大使が、着物姿で、次に日本側からは柘植外務副大臣が、さらに、訪日中のジョンソン・スミス外相が挨拶され、各々、両国のこれまでの交流がいかに多様なものであったかについてのお話がありました。JETプログラムによる英語教師の日本派遣や協力隊員によるジャマイカでの草の根協力は長年続けられています。また、ジャマイカ首相と同外相から能登地震被害へのお見舞いの言葉があったこと、ハリケーン被害の多いジャ

マイカへの日本からの防災協力、治安改善のための交番システムでの協力が行われており、今回、気候変動と水産・海洋資源調査のための調査船の供与を通じた協力を新たに行うことになったこと、さらに、国際政治では、同じ価値観を有する民主国家として、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序を維持・強化し、地域及び世界の諸課題について、両国が多角的な協力を進め、J-J（日本とジャマイカ）パートナーシップを強化していこう、今年、両国の外交関係が還暦を迎えるのは喜ばしく、今後、さらに発展することを願っていますとの力強い御発言が続きました。



その後、日ジャマイカ友好議連会長の猪口参議院議員の乾杯の音頭や東京オリパラに参加するジャマイカ選手団を応援した鳥取県から平井知事による英語での力強いご挨拶、そして鳥取県の県立高校の吹奏楽部学生達による吹奏楽演奏などが続き、約300名の招待客の皆さんも拍手するなど楽しんでおられたようです。

ジョンソン・スミス外務・貿易大臣（写真左側）と歓談した際、私から日本での残り滞在期間を大いにエンジョイされることを願いますと述べたところ、『日本の「おもてなし」には感動しています、日本での滞在を大いに楽しみたい』との御返事があり、また、孫がジャマイカの100メートルのスプリンター選手を大いに尊敬し、毎日、かけっこをしていますと申し上げたところ、「ウサイン・ボルトですね」と微笑みながら、言葉をお返し頂いた。



なお、ジャマイカは、来年4月から始まる大阪・関西万博への参加を表明しています。

還暦を迎えた両国関係が、今後、益々発展することを願いながら、盛況であった祝賀レセプション会場を後にしました。

（※ 筆者は、1973年から43年8か月間外務省に勤務し、2016年12月、駐グアテマラ大使を最後に退官。現在、外務省参与及び和歌山大学客員教授。令和6年2月10日記）